

【島のくらしの情報】

三島村(竹島、硫黄島、黒島)

① 仕事(収入)の状況	本村では畜産業が栄えており、村としても畜産業を主要産業と位置付け、牛舎の整備などを行っています。畜産業で定住をしたい場合には新規就農支援などを行うとともに収入支出のサンプルを提示することが可能です。
② 住居の状況 (貸家、空き家など)	各地区に20棟ほどの村営住宅を整備していますが、最近は多くの応募があることから空室はあまりありません。国や県の補助を受けて毎年各地区に1棟程度の整備を予定しております。
③ 医療環境の状況	本村では、医療の充実を図るため各地区に診療所を設置、看護師を配置しています。現在赤十字病院の医師が各島を巡回しています。このほか、各診療所と鹿児島赤十字病院をテレビ回線でつなぎ、遠隔医療診断を実施できるシステムの導入や、胃カメラ、腹部エコーなど最新医療機器により病気の早期発見に努めています。万が一に備えて緊急通報装置を導入しているほか、旧館発生時には緊急医療対策として県防災ヘリコプターや自衛隊の協力の元市内の病院へ搬送するシステムを構築しています。
④ 福祉環境の状況	本村は高齢化が著しいため、各地区に老人福祉センターや生活センター、生きがい農園などを整備し、ホームヘルパーや運動普及推進員とともにお年寄りが地域の一員としていきいきと過ごせる環境づくりを進めています。また、食事サービス活動や娯楽行事を定期的で開催し、温泉の整備、敬老特別乗船券や敬老金の支給、敬老訪問などのサービスを実施しています。
⑤ 教育環境の状況	村内の各地区に小中併設の学校があり、少人数のクラス編成を行っています。教師一人に対し子どもの人数が少ないため、学業面生活面での指導が十分に行き届きます。また休み時間には校長先生とサッカーをしているなど、異学年や他の先生たちとの交流も多くなり、家族的なつながりをもてるのが特徴です。豊かな自然の中でそれぞれの個性を活かした、心の通った教育が展開されています。教育内容の多様化・情報化に伴ってパソコン教室などの特別教室も充実が図られ、個々に応じた指導法により、学業の向上に向けた取り組みが真剣に行われています。本村では、児童生徒が親元を離れ雄大な自然の三島村で島内の子供達と一緒に学業に取り組む、しおかぜ留学制度が整備されています。
⑥ 上下水道・電気・ガスの状況	各地区の水状況は、水道利用が100%です。また、し尿処理は浄化槽の設置を義務付けており、100%の設置率です。ガスはプロパンガスを本島より、各家庭ごとに購入する必要があります。電気は、島内に火力発電設備と発電会社(みしま発電管理有限会社)があります。

<p>⑦ 本土との交通手段 (費用、時間、便数など)</p>	<p>鹿児島市南埠頭(水族館や商業施設ドルフィンポートなどの近く)を村営定期船「みしま(フェリーみしま)」が定期的に運航しています。 平成28年8月時点では、月13航海で運航しています。 鹿児島港から各島の所要時間は、 【竹島】約3時間 【硫黄島】約4時間 【黒島(大里)】約5時間30分 【黒島(片泊)】約6時間 運賃(片道) 1等客室 7,200円 2等客室 3,600円</p>
<p>⑧ 島内の交通手段 (費用、便数など)</p>	<p>本土との交通手段と同じく、村営定期船によって接続されています。 島内間運賃(片道) 1等客室 2,260円 2等客室 1,130円</p>
<p>⑨ 買い物場所・物価の状況</p>	<p>村内には4店ほどの商店がありますが、島内で生活する場合、食料や日用品のほとんどを本土から取り寄せる必要があります。 運賃が必要なことから、地区内で取りまとめて注文する場合があります。</p>
<p>⑩ これまでの移住実績</p>	<p>平成2年から定住対策事業を実施し、65世帯183名がUターンをしました。</p>
<p>⑪ 移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況</p>	<p>定住の下見を要望に対し、宿泊場所や案内人の手配を行っています。 また、役場職員が同行して案内をする場合もあります。</p>
<p>⑫ 移住にあたっての支援の状況</p>	<p>鹿児島港から移住先の港までの船運賃を補助しています(上限額10万円)</p>
<p>⑬ そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報</p>	<p>定住を希望する場合には、一度島に訪れて、どのような暮らしぶりなのかを確認することをお勧めします。 また、移住後は、積極的に地区の活動に参加することをお勧めします。 相談は三島村役場定住促進課まで(099-222-3141)</p>